

令和7年度 笑顔と学びの体験活動プロジェクト

子供企画型 レポート

「Next Wave : 地域を揺るがす、若き才能の鼓動」 ～地域人材と連携した体験活動を通じて自己表現と創造性を育成する～

豊島区立西池袋中学校

教育計画上
のねらい

- 様々な表現活動を通じて、生徒の個性や才能を引き出し、自己表現力と創造力の育成を図る。
- 企画運営や表現活動を通じて、問題解決力や自己肯定感を高める。
- 新しい表現方法や課題に挑戦する際の地域人材との協働を通じて、コミュニケーション力や困難を乗り越える力及びチャレンジ精神を養う。
- 多様な表現方法や価値観に触れることで、相互理解と共生の態度、多様性を尊重する姿勢を養う。
- チャレンジクラスの活躍の場を設定する。

児童・生徒の企画内容
年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
・生徒実行委員の募集及び実行委員会の立ち上げをした。 ・HIPHOPスクール（ダンス・ミュージック・グラフィティアート）の参加生徒募集チラシをチャレンジクラスの生徒が作成した。												
・実行委員会が中心となり記念フェス運営スタッフを生徒募集した。 ・動画撮影担当の生徒が、プロの事業者から、撮影方法や編集について指導を受けた。 ・花火大会担当生徒が、PTAと花火大会について打合せを開始した。												
・HIPHOPスクールを開講して、ダンス、ミュージック、グラフィティアートのプロによる全16回の練習を開始した。 ・記念フェスの記録動画をダウンロードするためのコード入りカードのデザイン募集及びカード作成を特別支援学級生徒が担当した。												
10月25日（土）午後 20周年記念フェス本番。正面玄関では、チャレンジクラスが作成した、西池袋中キャラクターのプロジェクト登場マッピングの投影を行った。												
11月1日（土） TOSHIMA STREET FESステージに出演した。観覧席から全校生徒が応援する中で、ダンス、ミュージック、グラフィティアートの発表を行った。												

児童・生徒の声



企画に関わった
児童・生徒

「プロのイベントと企画と一緒に考えてMCをしたり、生徒会の寸劇や先生方が出演をしたりして、とても良いイベントになった。みんなが楽しく、ワクワクできて、日常を忘れるイベントにしたくて頑張って、実現して嬉しかったし、日々笑顔になれることができた。」

参加した
児童・生徒

「とても緊張したけど、会場の光やペンライトなどが、初めての景色で感動した。また、大きなイベントの舞台に立つことで、自分への自信にもつながった。緊張して口から心臓が出そうだったが、観客の人たちが盛り上がりってくれたので、楽しく踊れた。」「最後は本当に疲れたが、とても充実した疲労感だった。」「学校でやるからこそ楽しかった。」

取組・実践



実行委員とプロの事業者によ実行委員とボランティアスタッフ打ち合わせ



実行委員を中心に打ち合わせ

本プロジェクトの開始に当たり、20周年記念フェスティバル生徒実行委員会の参加者を募集した。実行委員会では、全体の概要を説明し、実行委員長を中心とする役割の分担を決めた。打ち合わせに際しては、プロの講師や地域の方々と生徒達が、「全校生徒が笑顔になり、日常生活をわくわくさせるフェスを企画するにはどうすればよいか」という思いを共有しながら、内容を検討した。全校生徒が参加できるフェスとして、出演、舞台設営、動画撮影など多様な参加型の活動を計画し、実現可能性や運営方法について意見を交わした。

HIPHOスクール開講

ダンス、ミュージック、グラフィティアート、計3種類のHIPHOPスクールを任意参加で開講した。各スクールでは、全16回、約4ヶ月にわたる練習期間を設定した。また、実行委員会の撮影担当生徒はプロの事業者による動画撮影・編集講習を受講した。HIPHOPスクールの最終目標を、10月25日（土）に開催される「20周年記念フェスティバル」でのステージ発表に定めた。

プロジェクト登場マッピング作成

チャレンジクラスでは、西池袋中学校のキャラクター「にじまる」をコマ撮り動画で加工し、白い球体に投影することで「動くにじまる」を作製した。



「20周年記念Tシャツ」
HIPHOPスクール・グラフィティアート生徒が作成したTシャツ

20周年記念フェス当日
(西池袋中学校体育館・ラップバトル特設ステージ設営)

10/25(土) 20周年記念フェス

リズム運動部生徒及びHIPHOPスクールのダンス受講生が、体育館の舞台で発表を行った。ミュージック受講生は特設ステージにてラップバトルや自作楽曲の披露を行い、グラフィティアート受講生は自ら作成したTシャツやウォールアートの展示発表を行った。実行委員会生徒はMC、舞台設営、照明スタッフをそれぞれのプロと連携して担当し、記念フェスの運営に携わった。

成果

- 実施後のアンケートでは、「学校全体の一体感を感じた」「また全員参加型イベントを企画したい」など、約6割の生徒が主体的な活動を通して達成感を得たと回答した。また、「みんなで表現することの楽しさがあった。」「自己肯定感が向上した」など、約4割の生徒が内面的な変化を実感したと答えた。これらの結果から、達成感や充実感の共有にとどまらず、生徒が学校生活をより意欲的に充実させようとする気持ちの醸成につなげることができたと考えられる。
- プロの方との協働による、体験活動や舞台発表を通じ、生徒が新たな夢や将来への希望を抱く契機となった。